

パートナー

市民活動はまちの未来を創造する

特集

学生時代の震災をきっかけに活動をはじめた3人が語る「被災地」と「活動」への思い

(2～3ページ)

静岡2.0の大原みちのさん、しずおかおちゃっこ会の小澤賢広さんは学生時代の東日本大震災、静岡の学生による能登半島復興支援ネットワークこんぱす(以下こんぱす)の石井恭華さんは能登半島地震をきっかけに活動をはじめました。「東日本」と「能登」の違いはありますが、復興支援活動という共通点のある3人に、それぞれの活動や思いについて語っていただきました。

鼎談

震災と私、私と市民活動

～ 学生時代の震災をきっかけに活動をはじめた3人が語る『東日本』と『能登』、『私』～



静岡2.0

大原みちの

大学3年(2012年)から活動

こんぱす

石井恭華

大学1年(2024年)から活動

しずおかおちゃっこ会

小澤賢広

大学2年(2011年)から活動

清水市民活動センターでは2024年1月以降能登半島沖地震に関連する情報コーナーを設置しています

大原さん、小澤さんの学生時代の想いや状況を語ってもらうことで、被災地の状況の変化に加え、学生から社会人になったこと、結婚して子どもが生まれたこと等自身のライフスタイルの変化に伴い、学生時代とは異なる「市民活動」との向き合い方を模索してきた2人の姿がありました。一方で、こんぱすの石井さんのように、2024年の能登半島地震をきっかけに活動をはじめた学生にとっては、2人のあゆみが卒業後の未来を見据えた活動との向き合い方の参考になったかもしれません。

静岡市清水市民活動センターでも、毎年3月に防災に関連した講座を開催しています。今年は、大原さんが副代表を務める静岡2.0にファシリテーターをお願いして、「防災バッグから話そう レジリエンスとわたしたち」を開催します(詳細は4頁)

(取材日: 2025年1月4日 インタビュー センタースタッフ 前田嶺)

ー2.0と言えば、『レジリエンス※』ですね。
活動の軸であるこの言葉に出会ったきっかけを
教えてください。

大原ー2012年の6月に石巻に滞在させてもらった時の経験がきっかけになっています。私は、福祉避難所の手伝いをしていました。そこは、シェルター的な役割も兼ねていて、息子さんから暴力を受けてしまったおじいさん、仮設住宅で生活をしていたけど、料理の仕方を忘れてしまったおばあさん等がいました。一方で、港に連れて行ってもらおうと、東京の大学と連携して漁港の復旧に取り組む人達もいました。震災で疲弊しても、前向きに取り組んでいる人がいる一方で、震災前よりも生活が苦しくなっている人もいて、この違いについて考えました。帰ってきてから、教授と話をしている時に、『レジリエンスを地域に当てはめることができないか』と言われました。それから週に1回レジリエンスの勉強会をはじめました。

ー小澤さん、石井さんのきっかけとなったのは

小澤ー大学2年生の時に東日本大震災が起きました。発生直後に、大学の先生が現地の調査に行くことになり、ついていきました。その後も、継続して被災地にいき、大学4年時の1年間は気仙沼に拠点を置きました。同時に、静岡でも支援活動をできないかと考えていました。活動する中で出会った福島県から静岡県に避難してきた方(おちゃっこの代表)に、『僕と同じような経験した人が静岡にもいるはずだから、そういう人を集めて話したい』と言われました。これをきっかけに、今も続けている月に1回の交流会がはじまりました。

石井ーこんぱすは、能登半島地震の発生時に、NPO法人ESUNEの呼びかけをきっかけに集まった学生の団体です。最初は、自分に何ができるか考えました。集まった学生は3人でしたが、『まずは現地の状況を知ることが大事』ということになり、能登についての勉強会を開催しました。

ー小澤さん和大原さんは、東日本と能登の地震発生時について受け取り方の違いありましたか？

小澤ー能登の地震発生時は、SNSで情報を集めて、まだ動くときじゃないと思いました。東日本の時は、学生で何もわからなかったこともあり、とりあえず現地に行こうと思って活動していました。

大原ー東日本発生直後は、南海トラフが起きるかもしれないという噂もあり、とにかく不安でした。当時は、何もできない無力感に加えて、現地に行かないことへの後ろめたさみたいな気持ちも感じていたと思います。能登は、東日本の時よりは、冷静に対応できた気がします。以前は、家族とネットしか震災について話す場所がなかったけど、今は2.0のメンバーをはじめ震災について話せる人ができたので、焦らずに済みました。

※レジリエンス

困難に直面した時に立ち直る『回復力、弾力性、しなやかさ』のことを指し、心理学、震災等様々な分野で研究されている考え方。

静岡2.0

東日本大震災をきっかけに2012年に設立。地域の人々がともに手を取り助け合い、困難を乗り越えていけるように、人とのつながりを作り出す場づくりの活動をしている。

しずおかおちゃっこ会

2011年の3月11日に発生した東日本大震災で、東北から静岡に避難してきた方たちと静岡在住の方との交流会を開催し続けています。

こんぱす

静岡の学生による災害支援活動団体。マルシェに出展し、能登の商品を販売したり、SNSで能登の情報を発信している。

ー石井さんは、能登地震の発生前と発生後で気持ちの変化はありましたか？

石井ー防災についてやりたいという気持ちは、特にもっていませんでした。大学1年の夏に福島に行く機会があり、まだ入ることができない中間貯蔵地域を見ました。2人の話を聞いていて、もしかしたら能登の震災が起きた時の『何かしたい』という気持ちに繋がっていたかもしれないと感じました。

ー10年以上の時間が経過したことで、活動への熱量等の変化はありますか？

小澤ー熱量は変わらないつもりでいます。ただ、学生の時と違い、仕事をしていますし、結婚して子どもも生まれました。避難してきた方達も静岡の生活に慣れて、近所の方のように親しくなっています。2020年に、帰宅困難地域が解除され、行政上は『帰れる人』になりました。でも、現地の情報がないので、福島に帰るか、静岡に住み続けるかの判断が難しい。だから、1年に1回僕が福島に行き、おちゃっこメンバーの家の写真を撮ってきます。それを見ながら彼らと『福島に帰る？』と話したりします。こうやって現地の様子を伝えていくことも、重要な役割と思っています。

大原ー大学3年で活動をはじめたこともあって、就職活動の時も2.0のことを考えていました。社会人になっても活動を続けたいと意味がないと思っていたので、県内の就職しか考えていなかったです。学生時代から『災害があった時に、この人達と連絡を取りあえるか』をテーマに活動を続けてきました。娘が生まれ母親になっても、そこは変わってないと思います。この1年で、母親コミュニティの防災シェア会に参加する機会がありました。そこで、頼まれてレジリエンスの話をさせてもらいました。

ー石井さんは、就職活動がはじまったら、関わり方は変わりそうですか？

石井ー就職活動がはじまったメンバーの中には、活動を控えている人もいます。私としては、続けられる限りは、続けていきたいです。社会人になっても、何かしらの形でやっていきたいと思っています。あと、4月になったら1年生が入ってくれたら嬉しいね、とメンバーで話しています。

ー最後に、感想を一言ずつお願いします。

小澤ー東日本、熊本、広島、土砂災害、熱海の土砂災害など災害が起きた時は、1度は現地に行っていたのですが、能登は行けてないです。形はわかりませんが、これまで培った経験を能登に活かさせられないか考えています。ただ、福島の震災はまだ続いているので、そちらもおろそかにしないように気をつけていきたいです。

大原ー将来について悩む大学生だった時期に、震災が起きたことが大きかったと思いました。高校生の時や社会人の時だったら、こんなに深く関わってなかったと思います。学生の時の東日本を起点に、災害も、静岡2.0もずっと横にいて、常に一緒に歩いていきたと改めて感じました。

石井ー10年以上活動をしている2人の話が聞けて良かったです。2人の当時の想いを聞くことで、自分と同じような想いを抱いている人がいたことに気づきました。能登の方から『少しでも想いを寄せてほしい』『忘れないでほしい』という声もあります。長期化していくと思うので、能登を忘れない、忘れさせないことを大事にしていきたいです。

各団体の今後の予定

しずおかおちゃっこ会

キャンドルナイト～未来へつなげる希望のひかり～

日時 3/11(火) 17:00～20:00 (13:00～準備)

場所 静岡市常磐公園

<https://shizuchakai.wixsite.com/ochaltuko>

静岡2.0

ゆるくつながる水曜日

日時 3/26(水) 19:00～21:00

場所 番町市民活動センター 中会議室

<https://shizuoka2ten0.jimdofree.com/>



こんぱす

高校生探求プロジェクト（募金と出店で調整中）

日時 2/11(火・祝) 10:00～15:30

場所 グランシップ静岡

https://www.instagram.com/skn.shizuoka_konpas_noto/



※詳細は、各団体のHP、SNSでご確認ください。

！ NPOワンポイント 年度末業務、スタートです

3月末に事業年度が終了するNPO法人のみなさんは、活動のほか事務作業も忙しい時期を迎えます。

■決算の準備を始めましょう。

- ・事業計画に沿って、実際におこった事業経費の整理
- ・仮決算をし、未収金、未払い金について確認しながら決算見通しを立てる

■事業計画と実績を比較して成果や課題を整理しましょう。

理事会等で年度内に話し合い、次年度の事業計画を考えておくことでスムーズに新年度がスタートできます。

■理事会、監査、総会のスケジュールを立てましょう。

■役員が任期任期満了を迎える場合は、次期役員についての準備を始めます。

といったことが必要です。負担軽減にもつながるので早めの準備を！

センターからのお知らせ

主催講座「防災バッグから話そう レジリエンスとわたしたち」

災害発生からその後の被災地の動きに注目し、立ち直りの鍵となる「レジリエンス」について紹介します。

防災バッグから自分の防災への想いを話し合うワークショップも開催。対話を通して防災準備の原動力やヒントを見つけてみませんか？

日 時：3月15日(土) 13:30～16:00

プログラム：13:30～ 静岡2.0のおはなし
「レジリエンスと災害」
15:00～ ワークショップ
「防災バッグとわたしたち」

ファシリテーター：静岡2.0

対 象：これから防災準備を始める方
防災に関心のある方
レジリエンスについて知りたい方

参加費：なし

定 員：20名



令和7年度事務ブース入居団体募集

市民活動団体が事務所として利用できる事務ブースの入居団体を募集します。

■利用料：5,230円／1カ月

■備 品：・事務用デスク、椅子

・大型ロッカー（横90×縦210×奥行42cm）



※インターネット接続可

■申請期限：2月28日(金)

必要書類を添えて申し込んでください。

※入居にあたっては、選考委員会による審査があります。

申請書類の請求、お問い合わせは
清水市民活動センター

🔍 しみず・これなあに？ その65



清水の美濃輪稲荷神社は、京都伏見稲荷の分社として約400年前に建立されたという由緒ある神社です。境内には奉納された赤い鳥居が連なり、清水港を訪れる客船の観光客にも人気のフォトスポットでもあります。

鳥居ではないこの写真に、まさに「これなあに？」と思われた方も多くことでしょう。

周囲にめぐらされた玉垣は、明治13年造営と説明されており、その中のひとつに「山本長五郎」の名が刻まれています。

そう、清水の次郎長さんです。劣化が進み文字の判読も難しい状態ですが、この町に生きた証がここにも残っていました。「次郎長って誰？」近頃そんな若者も増えてきましたがね。